キセキ

夕凪

恋

あの日
一通のメールから
あなたに恋をした
恋の始まりって
わからないね

でも

あなたの隣にいられて

私

今とっても幸せだよ

一筋の光

例えば今日が暗くたって

　明日は明るい光が射す

そう信じたい

　闇に囚われていたとしても

　一筋の光が射す

その一筋の光を頼りに

今日も生きていく

闇なんて　光の前では消し飛ぶ

貴方は自由なんだ　闇に囚われたままではないんだ

　さぁ　ここから　どう生きるかはあなた次第

大丈夫　怖くないから

一歩踏み出してごらん

　新しい世界が広がっているから

彩り

あなたに出逢えて
私のモノクロの世界に色がついた
あなたは
私の世界に光と彩りをくれた
その光と彩りを頼りに
私は生きていく

あなたに
出逢えたキセキ

一生大切にするから

キミに逢いに

あのカーブを越えたら
キミが待つ公園に着く

僕は
キミに逢いたくて
カーブを急いで曲がる
信号が妙にもどかしい

早く
早く
キミに逢いたいのに

信号がまだ変わらない

変わったら

君の待つ公園はすぐなのに

待っていて

信号が変わったら

すぐに

君に逢いに行くから

携帯電話

あなたの番号を
ずっと押せない私がいます

発信ボタンを押せば
あなたと繋がるのに

押せないまま

時が過ぎていきます

本当はあなたと話したいのに

あなたにかける勇気がありません

キセキ

もう恋なんてしないと思ってた
独りで生きていくと思ってた

そんな時

一通のメールという手を差し伸べてくれた
そんなあなたが居た

あなたに出逢えて
私のココロに光が射した

あなたに出逢えたことが『キセキ』だよ

ありがとう

翼

翼があれば
あなたのもとへ飛んでいけるのに
あなたを
包み込んであげられるのに

私には
その翼がない

でも

待っていて

必ずあなたのもとにたどり着くから
あなたを包んであげるから

未完成

人は誰しも未完成　完璧な人なんていない　それでも　お互い支えあって生きているんだ

嬉しい時も

哀しい時も

支えあって生きているんだ

理由

あなたを愛することに
理由なんていらないよ

理由をつけるとするならば
それは
『運命』

あなたを愛すること
惹かれ合うこと
出逢った時から全てが始まっていたんだ

あなたを愛するように

それが
あなたを愛する『理由』

涙

貴方を想って流す涙は
いつの間にか
水たまりを作ってしまいました

貴方を想い
積もり積もった涙は
貴方に届くことはなく

貴方にこの想いが届けばいい
そう
思っています

恋文

貴方を想って書いたラブレター
渡せないまま時が過ぎていきます
色あせてしまったラブレター
それでも
また
貴方に想いをしたためます
いつか
貴方に渡せるように

貴方への想いをしたためたこの手紙

いつか渡せるように

くちづけ

愛する貴方と口吻を交わす
それは
とても幸せなこと

逢えない夜も
貴方との口吻を思い出す
幸せな気分を
忘れないようにと

逢えた日に
また
貴方と口吻を交わす
それが
幸せで仕方ないのです

初恋

初めて人を好きになりました
初恋は実らないなんて言うけれど

名前も知らない
何処の誰かもわからない
いつも電車で一緒になる貴方

いつまでも同じ電車で乗っていられたらいいのにと
思うのです

いつか
貴方の声が聞けたらいいのに

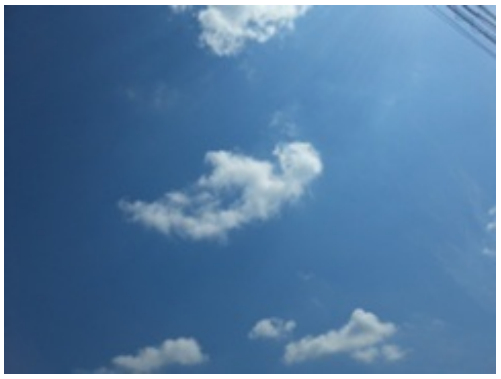
最愛

最愛の貴方へ
いくら「愛してる」と言っても足りない
抱きしめられても
もっと抱きしめて欲しい
そんな贅沢な私

貴方の癖も何もかも愛おしい
全ての貴方を愛してる

最愛の貴方へ
私からのありったけの愛を捧げます

あの空



あの空と同じ空の下に
いつも貴方はいる
そして
私もいる

電脳世界で出逢った私と貴方
でも確実にこの世界に存在しているんだ

いつか逢えた時には笑顔で言おう
「初めまして」

最後の想い

あなたの想い出のカケラを
バラの花束に込めました

バラの花びらに
あなたへの想いを込めて

もう私の想いは届かないけれど

せめて

あなたを想うことだけは許してください

このバラの花束にのせて

あなたへの
二度と届かない想いを
届けます

二度と届かない
私の最後の想いを

君の声

君の声を聴くたびに
私の胸は高鳴る
いつも
いつまでも
貴方の声を聴いていたい

貴方の声を聴くたびに
私の胸は幸せでいっぱいになる

できれば
貴方の傍に行きたい
そうすれば
貴方の声を独り占めできるのに

Like or Love?

いつから貴方のことが
「好き」から
「愛してる」に変わったんだろう

いいえ

どちらでもいいの

貴方の傍にさえいられれば

片恋

わざと登校時間を君と一緒に
君と一緒にいたいから
ボクの思いはキミにまだ届かないけれど

キミはボクの想いに気が付かなくて
ボクに話しかけてくる
その時間が妙にじれったい

いつか君に伝えたい

「大好きだ」と

キセキ

もう何もいらないと思ってた
誰も信用しないと思ってた

それでも

貴方に逢えた
それが キセキ

これからもずっと一緒に居られたら
それが私の願い

キセキ

http://p.booklog.jp/book/77751

著者：夕凪
著者ホームページ『PrivateGarden』
http://yunagi.holy.jp

表紙写真：水没少女様

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/77751

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/77751

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ